

高澤組その3

2024.10.28

2023年9月9日に、「校長室だより～燦燦～」841号「高澤組」を出した。その翌日には、続けて「高澤組その2」が出た。今回は、その続編である。

と言われても、何のことだかわからないのが当然である。昨年の夏に、部活動の教え子たちが集まってくれた。私が退職を迎えるからである。昼には、久しぶりにテニスコートでボールを打った。そして、夜も集まった。それぞれの代の仲間たちが集まってくれた。そのときに、昼も夜もずっと写真を撮ってくれた教え子がいた。プロの腕だった。素敵な写真が何枚もあった。200枚以上もデータでいただいた。宝物となった。

今年も、9月に会を催してもらった。いろいろな話題で話していると、プレゼントコーナーがあった。立派な箱をいただいた。その場で開けてみるように言われた。素直に従った。何が出てくるのか予想もつかなかった。出てきたのは、どうやらアルバムだった。素敵な仕上がりだった。

写真と文章があった。写真は、昨年の夏のものだった。文章はというと、上記の「高澤組」と「高澤組その2」からとったものだった。写真と文章がマッチしていた。そのセンスがすばらしい。プロのなせる業である。感動、いや感激した。家に帰ってから、家人に自慢げに見せたのは言うまでもない。これこそ、一生の宝物である。

会では、昨年の会に引き続きの話も出た。仕事での悩みのようなものである。中間管理職というか、人を動かすリーダーとなつての苦勞である。みんな、そういった年代になってきている。話を聞きながら、私なりのアドバイスをした。職業は違えど、人を動かすリーダー、人の上に立つ人間として、考えるべきこと、やるべきことは共通している。したがって、私の経験も少しは役に立つかもしれない。

話をしていたら、中学生とソフトテニスをする展開となった。おかげで、テニスコートに行つて、教えている。呼ばれたら、どこにでも行くようにしている。みんな勝ちたいのである。もっと、うまくなりたいのである。保護者も、それを応援したいのである。私の経験が、お役に立つのであれば、それはうれしいことである。

昨年、今年と、教え子の皆さんには、随分とお世話になった。みんな、りっぱな社会人である。今では、一人の人間として、話したり、お付き合いさせていただいたりしている。年を取るのも、そうわるいことではない。これからも、教え子の皆さんとの交流を楽しみにしたい。